

# アニメ業界の発展を考え、契約整備を推進

## 事業内容

アニメーションの企画・制作。アニメ製作会社等からの依頼により、映画・テレビ番組の企画や作画を担当。国内外で大ヒットした作品も、数多く手掛けている。また2005年には自社製作作品『嘉兵衛の海』を劇場公開した

## 著作物

映画 「嘉兵衛の海」(2005年)

ACTIVITIES & ACQUISITION IS INTELLECTUAL DATA



代表取締役 石黒 竜さん

## 企画から作画、品質管理とアニメーションの制作現場を支える

国内外に熱狂的なファンを持つ、日本アニメ。1973年に設立された動画工房は、アニメ用のシナリオに沿って絵コンテや連続した動きを描く作画作り、背景と合わせるなど広く映像作りなどを手掛けている。アニメーションの制作現場を支える同社は、社内に作画等を担当するアニメーター、ディレクションから品質管理まで担当するプロデューサーを抱え、「ドラえもん」「ポケットモンスター」「エヴァンゲリオン」「千と千尋の神隠し」など、国内はもちろん、海外でも大ヒットしたテレビ・映画作品に数多く携わってきた。

また、2005年には自社製作映画「嘉兵衛の海」を劇場公開したほか、人気シリーズ「恋姫†無双」のアニメーションを担当するなど、多数の実績を持つ。

## 業界の通例を見直してより働きやすい環境整備を

著作権や商標をはじめ、アニメーションの世界には、数多くの知的財産権が存在する。

しかし同社の社長、石黒竜さんは「現在、日本のアニメーション業界でアニメーターに与えられる知的財産の権利はほとんどありません」と語る。これは、良い作品を作りたい、より多くの作品に携わりたいと考えているアニメーターにとって、契約の概念があまり重要視されてこなかった経緯がある。以前は、契約書を交わさないケースも少なくなかったという。

しかし近頃は下請法との関連もあり、アニメ製作業界にも契約の概念が浸透し、また著作権への意識も高まってきている。石黒さんは「当社では現在、ほぼすべての作品で製作者側と契約を結んでいます。それぞれの立場の人の権利を守ることは、各自のモチベーションにつながります。それが良い作品作りや業界全体を盛り上げる力になると思います」と、知的財産権の大切さを訴える。

## 劇場やテレビからWEBへとチャネル拡大

アニメーションは、今や映画やテレビだけでなく、インターネットでの配信も増えている。石黒さんはこれを「映画やテレビは影響力が大きいけれど、製作に莫大な費用がかかります。しかしインターネットなら、低コストでも自社の作品を発表できます。これは制作現場の人間だからこそできることかもしれません」と歓迎している。そして作品配信を、アニメ業界の通例を変える突破口にもしたいと考えている。「メディアが切り替わる今の時期、新しいルールを主張する良い機会だと思います」。

今後増やしたいと考える自社製作の作品についても、キャラクターのデザインをした人の権利をしっかり守る仕組みを作っていく考えで、権利の配分は作品ごとにパーセンテージを決めていく予定だ。これは、作品により難易度や工数に差があるため。それぞれのケースに見合うようにしたいと考えている。

## COMPANY DATA

所在地：東京都練馬区東大泉 5-41-21 東和ビル

電話番号：03-3978-6393

URL：http://www.dogakobo.com/

創業：1973年7月11日 資本金：500万円

従業員数：47人(2010年12月現在)

## 実務の中で習得する知的財産の管理法

こうした知的財産の管理は、主に制作部門のプロデューサーが担当する。必要な知識は、日々の仕事を通じて身に付けていくという。「当社が生き残るためにも、知財は重要なポイント」と石黒さんは話す。

自社作品を公開した場合、作品に続き、DVDやフィギュアなど関連グッズなどが生まれる可能性は高い。成功へと近づくたび、知的財産の管理は重要性を増していくだろう。

## アニメ作品の製作を取り巻く国内と海外の事情の違い

とはいえ日本では、一つのスタジオで作品を作り、発表するのは、簡単ではない。その大きな理由がコスト問題だ。

石黒さんは、「日本のアニメーションがもう一段回飛躍するためのヒントは、フランスにある」という。

## 動画工房の制作協力作品(一部抜粋)

映画		テレビ	
2007年	エヴァンゲリオン	2009年	グインサーガ
2006年	ゲド戦記	2008年	ドラえもん
2005年	鋼の錬金術師	2004年	かいけつゾロリ
2003年	ハウルの動く城	2002年	あたしんち
2002年	犬夜叉	1998年	ポケットモンスター
2001年	千と千尋の神隠し	1997年	金田一少年の事件簿
1988年	火垂るの墓	1995年	ドラゴンボール
1988年	魔女の宅急便	1984年	北斗の拳
1985年	天空の城ラピュタ	1975年	一休さん
1983年	風の谷のナウシカ	1973年	ゲゲゲの鬼太郎



2005年に劇場公開された自主製作映画『嘉兵衛の海』

## 高度な技術を持つアニメーターは日本の強みであり、財産

日本同様にアニメファンが多いフランスでは、費用を国やテレビ局が出すケースも多く、なおかつ著作権等の権利は制作スタジオに属する。さらに映画館の収入は売店の売り上げのみで、チケット代はすべて制作サイドに権利があるという。

「良い作品を生み出す環境を整えるためにも、海外の優れた方法を取り入れ、日本に適したやり方にアレンジすることで、日本のアニメを取り巻く環境の向上を目指したいですね」と石黒さんは抱負を語る。

ジブリを代表するさまざまな映画作品や、海外でも大人気のテレビアニメ作品の多くに、動画工房がかかわっている

## 知的財産活用のポイント

今、海外では文化交流やコスト削減をねらい、他国との共同製作を歓迎する国が増えている。中国もその一つで、誘致にも熱心だ。同時に、自国で製作したアニメ番組がヒットして以降、商標などの権利を守る態勢が着実に整いつつある。

このように、国内外で知的財産に関する認識が高まっているアニメ業界。日本作品がさらに海外で活躍するためにも、権利関連の整備が急務だといえるだろう。

## 高度な技術を持つアニメーターは日本の強みであり、財産

自社や日本のアニメーターの強みは、丁寧さだと石黒さん。「登場人物の表情や目線など、細部にまでこだわります。社内にも動画と作画に各チェック担当者を設置し、品質保持をしています」。この職人気質も、同社の重要な知的財産と言えるだろう。